

絡調整を配慮するようつとめた。しかし、いま、これらの事業をかえりみると、わずか五年のあゆみにすぎず、今後の課題としてこのされるものが少なくない。そのいくつかをあげてみると、

「マンネリ化を避け、さらに魅力あるプログラムを企画すること。」

「事業にながら求められているか把握と潜在的な要求をどう掘りおこしていくかの問題」

「対象をひろげる工夫とあらたな対象の開拓およびその調和」

「青少年の企画・運営参加と青年の家のかかわり方」

「指導内容の充実とPRの拡充をはかるための予算的裏づけ」

「参加者による評価から事業の客観的評価基準の作成」

「近隣市教委と青年の家が事業を通して連携するとき、どうすれば相互にプラスになるのか」

「事業の企画・実施に専門職集団として十分に力量発揮できる条件などがある。

(前 府中青年の家事業係長)

自主事業のひとつ

「ダンスフェスティバル進行中」

西村 美東士

去年、十二月十日、私が初めて

持つ主催事業、「ダンスフェスティバル」が行われた。一泊二日、最初の夜を、新宿のディスコの店の人を講師とした「ディスコタイム」、次の日、フォークダンス連盟の人を講師とした「フォークダンス・レクダンスタイム」とした。

ディスコについては、社会教育事業の中では、いまだ市民権をもっていないが、ディスコを社会教育に位置づけることもこの時のねらいであった。

ディスコを踊るのは、楽しい。一昔前のゴーゴーも楽しいが、法則性をもったステップを皆で合わせて踊るのもさらに楽しい。しかし、ディスコの店の中で、青年たちは、意外なことに、ひとりぼっちである。ステップを合せた瞬間の連帯感、ひどくたよらない。

そして、うまく踊れなくて隅で、ちぢこまっている連中は「カッコ悪い」連中。それが、かわいい女の子でもない限り、教えてやろうなどとは夢にも思わない。

今回の「ダンスフェスティバル」は、ディスコを踊る楽しさを味わうこともさることながら、そう

いう「踊りたくてもついでゆけな

い」仲間を、フロアにひっぱり出して楽しく踊れるよう心がけた。このような「あたたかい」ディスコは、お店では、なかなかできないと思う。

その後、実行委員会を組織し、今年に入って、「ジルパフェスティバル」を行なった。今度は「ミニダンスフェスティバル」を行なう。いずれも五十人程度の「ミニ」だが、後者では、参加者が、客としてではなく、「講師」として参加する。東京のいろいろなサークル、特にレクリエーションサークルが得意のダンスを教えあい、交流する機会になればと思っている。

(社会教育主事)

友情を深める

拠点に

トリオ・バスケット同好会

府中青年の家創立五周年おめでとうございます。当同好会も発足

以来府中青年の家を拠点として、六ヶ月を迎える事ができました。

過去いくたびか利用させていただき、同好会の運営にたいへん役

立っています。私達の職場には、

厚生施設がとほしく、充分な運動をする事ができなく、私達のようには、屋内スポーツを志す者にとっては、体育館がないという事は、たいへんお助けになります。そこで、知人より青年の家を教えられ、利用して、現在に至っています。

私達の同好会には、女性の参加が多いこともあり、利用施設がさがりだすことができます。その点、青年の家は低使用料で、宿泊設備が整っています。しかも交通の便もよく、東京や横浜からも比較的短時間で行く事ができますので、たいへんたすかります。

ところで、青年の家の、団体生活についても、非常に有意義です。活動の効率が上がることはもとより、日常生活をみなおす刺激にもなります。きびしい規則のなかでも、朝のつどいを始め、生活で触れ合う他団体との交流等、楽しく過ごせ、親睦を深めることができました。

今後とも、青年の家を利用される他のサークルのみならず共に、当同好会も利用させていただきます。より友情を深めていきたいと思っています。

今年、十二月十日、私が初めて